

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあつては名称) 日本エクスラン工業株式会社		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒 530-0004 大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号	
本票作成	部署名：日本エクスラン工業株式会社 西大寺工場 工務部				
主たる業種	分類コード	11	業種名：繊維工業		
事業の概要	アクリル繊維生産量：18,000t/年 従業員数：300名				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	西大寺工場		岡山市東区金岡東町三丁目 3 番 1 号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(令和 元)年度排出量	目標年度(令和 元 年度)
	110,619 t CO ₂	42,704 t CO ₂	105,088 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和 元) 年度排出量
	①	西大寺工場	42,704 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 27 年度 ～ 令和 元 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(元) 年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	35.4 %	5.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 生産数量(当工場の主たる製品を生産するために要するエネルギーの原油換算量を基準として、製品ごとに換算したものの数値)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(元) 年度	目標年度
		3,468 t CO ₂ /(千t)	2,239 t CO ₂ /(千t)	3,294 t CO ₂ /(千t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和 元 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

2016年度より取組を始めた事業構造改革により、生産系列が5系列から3系列へ削減され、総生産量は基準年度である平成26年度より約60%まで減少したが、継続した省エネへの取組と2019年1月に完了した発電所の都市ガスへの燃料転換が通年で寄与したため、目標を大幅に過達できた。

【推進体制】

- ①省エネ対策委員会：工場長を委員長、各部長を委員とする工場全体会議（年2回開催）
- ②工場長の現場点検：副工場長、環境、工務部長も同行し安全の他、省エネについても点検する（毎週）
- ③コスト改善委員会：社長出席のコスト低減対策会議。その中で省エネ取組状況や実績の把握を行う（毎月）
- ④環境保全委員会：各部の環境改善目標に対する実績把握等を行う、工場長・部長出席の会議（毎月）

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
西大寺工場	(令和元年度実施分) (1) アクリル生産設備 ・送液ポンプの合理化及び適正容量化 (CO2削減量 188t/年) (2) 圧空設備 ・供給構成見直し (CO2削減量 233t/年) (3) 構内全体 ・照明のLED化400灯 (CO2削減量 11t/年) (4) 蒸気主管ドレン回収 (CO2削減量 63t/年) (今後実施予定分) (1) アクリル製造工程 ・能力適正化 (CO2削減量 87t/年) (2) 蒸気主管 ・放熱ロス削減 (CO2削減量 81t/年) (3) 構内全体 ・変圧器更新 (CO2削減量 10t/年) ・照明のLED化100灯/年 (CO2削減量 8t/年)

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

- (1) 空調用電力・蒸気節減のため、クールビズ・ウォームビズ運動推進
- (2) 社内環境展を（1回/年）実施、省エネと環境負荷低減を従業員にPR
- (3) 2017年 2月 産業廃棄物焼却設備 老朽化により停止
- (4) 2017年 2月 ANS生産系列5→4系列
- (5) 2017年10月 ANS生産系列4→3系列
- (6) 2019年 1月 発電設備へガスコージェネレーションシステム導入